

## 教育理念と教育構想

教育長の教育理念と

Q

加西で実現したい教育構想とは何か。

A

私が長い間抱いてきた理念は、もともと

生徒なり市民の皆さんが持っている姿、形、色を、いい支援をしてできるだけだけよりよい形、よりよい色にできたらという期待です。生徒それぞれが個性を持ちながら、もともとのよさを持ちながら、全体として学校がこのように輝いている、あるいは加西市がこのように輝くようなことを、これまで目指してきましたし、これからも目指したいと考えています。

義務教育という、同じようにやっていくことを中心に考えてきた教育システムをできるだけ特色のあるものにし、選べる義務教育というのはないかと思えます。

安全・安心の確保は喫緊のテーマと考えます。若者たちの心のことも大切なことだと考えます。それから、学ぶ力、あるいは学んだ力、学力とい

たようなこと、それと裏腹の関係にある教職員の資質の向上なども考えています。

教育は本当は相談なのではないかと思っています。できるだけ、個別的な相談のチャンスをまちの中につくっていくことも夢見ています。

だれかが教える社会教育でなくて、みんなが輪をつくって交流し合いながらお互いを高めていくような社会教育を求めていけたらと思います。

## 市長の行政への取り組み姿勢

Q

市長は加西市の顔であり、その言動は加西市を代表するものである。個人の考えや主張であっても、加西市の方針としてとらえられ大きな波紋を呼ぶことは間違いない。少なくとも公の発言や行動としては市民の代表である以上、意見集約をしてその上で個人の意見が通らなくとも、大局の意見としてまとめた上で、それが加西市の主張や発言であるべきと思う。市職員や隣接市長、あるいは県との話し合いをすることでは

信用も信頼も得られるのではないか。

A

加西市の顔として市長はどう思っているんだということをございます。が、いままでの歴代市長と比べていただいても見識やビジョンや行動力において遜色のないものと認識しています。すべては今後の成果で判断していただければと思います。

よりよい行政サービスを実現するためには、国や県、あるいは隣接市町との友好かつ緊密な連携強化は不可欠です。今後ともその点に留意して行政執行していきます。

## 乳がん検診

Q

ことしから乳がんの検診の視触診に加え、マンモグラフィー検査が併用となり、大変好評だったと聞きました。しかし、1日60人の制限で、予約の電話が殺到し、検査ができなかった方もたくさんあったとのこと。今後、乳がん検診をどのように考えるか。

A

全国的に年々罹がん率、死亡率は増加し、

加西市では昨年度の乳がん検診で2名の乳がんが発見されています。

今年度は、対象者を40歳以上の女性市民とし、1日の受診者は60人、5日間で年間300人を基本とする検診を既に4日間実施しています。また、アンケート調査によると、昨年度受診者のうち85%の方が視触診とマンモグラフィー検査併用による検診を希望されています。

今年度は、申し込み初日の朝すぐに予定の予約数が一杯になる状態で、来年度はマンモグラフィー検診機の搭載検診車を1台増やし、もう1日検診日を増やして6日間にすることで受診者を360人とする予定で、2年間でほぼ希望する方が受診できると考えます。なお、加西市では医師会の協力を得て視触診の検診を希望される方はいつでも受診できる体制を整えています。

## 幼稚園、保育園のあり方

Q

近年、少子化が叫ばれ、加西市でもいま

現実となつてあらわれてきている。小・中学校では学級が減り、それに伴い先生の数も減らされ、中学校では部活ができない状態も見られる。乳幼児につきましてはもつとひどく、5歳児だけを見てもここ10年間ほどで百名近く減ってきている。

加西市にはあまりにも公立の施設が多過ぎる。財政再建の観点から見ても、施設の統合、地域によっては民間への委託を視野に入れながら、もっと積極的に進めるべきではないか。

A

幼児教育幼児保育の施設数は26です。それに対して、幼児の数を比べると客観的に多いと判断されると思います。市民との対話を進めながらになります。幼児園化構想の中で、私立の保育所、幼稚園も一定の役割を長い期間果たしてきていますので、その役割も十分に認識しながら調和のある施設数というものを、考えていかなければならない時期だと考えています。